

明日にむかって

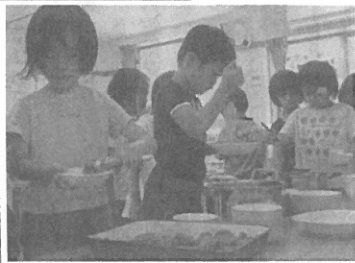
発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2010年7月17日
住所 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

62号

保育園には、さまざまな国籍の子どもたちが入園し生活を送っています。中でも在日コリアンの子どもたちは常に一緒に。先日、7年前に卒園し、現在、朝鮮中高級学校に通学しているKちゃんが久しぶりにやってきました。幼い頃の面影を残したKちゃんは笑顔いっぱい「授業料無償化適応を求める署名」を抱えています。その内容は、「今年4月1日に施行された高校の『授業料無償化法』に対し、文部科学省はたくさんある外国人学校の中で朝鮮学校に通う高校生に限って除外視し、決定を先送りをする」というものでした。なぜなのでしょう？ 北朝鮮への制裁措置の一環なのでしょうか。でも、子どもたちには何の責任もないはず。陽光保育園では、みんな一緒に、泣いたり笑ったり育っています。どの子も分け隔てなく、学び成長する権利が保障されることを願ってやみません。(T・H)



「外部搬入」です。私たち保育園では、日々子どもたちと関わりながら給食を作っています。子どもたちにとっても、誰が作っているのかわかっていることって大事なのではないでしょうか。



●給食にも進級のよろこび

3歳児クラスに進級してはじめての給食時、「あ〜、お皿がちがう！」と子どもたち。そして、カレーを食べると「味がちがう！」。たしかに乳児から幼児のクラスになって、食器が変わり、味付けも変わっています。敏感に反応したことにビックリです。給食時にも進級の喜びにあふれていた子どもたちです。(3歳児クラス担任 星いずみ)

上：ニコニコ笑顔で給食。会話ははずみ、「おいしいね」。5歳児クラスの子どもたち
下左：3歳児クラスの子どもたちも給食準備のお手伝い。そら豆の皮をむきました
下右：4、5歳児の子どもたちは配膳も自分たちで

保育園の給食 外部搬入なんてありえない!!

今、日本の保育制度は大きく変わろうとしています。戦後築きあげてきた制度が、崩壊の危機に瀕しているといっても過言ではありません。最低基準が崩され、さまざまな規制緩和が行われようとしています。そのひとつが保育園の給食の外部搬入です。関係者が反対の声を上げるまもなく、この6月1日より、3歳以上児について、公私立とも全国で外部搬入が可能となったのです。保育園の子どもたちにとって欠かせない給食が仕出し屋さんのお弁当でもよいなんて考えられないことです。陽光保育園から現場の声を届けます。

●寝耳に水の制度改正

思ってもみなかったことが、政府によって行われようとしています。3歳以上児に対する給食の外部搬入を認めるといいます。実施に当たっては、さまざまな要件が省令によって規定されていますが、それで本場に子どもたちの発達や体調を考慮した給食が提供できるというのでしょうか。散歩帰り、園が近づくにつれて漂ってくるいいニオイ、「今日の給食はなんだろう？」と給食室をのぞく楽しみ、全部なくなってしまうのです。

●給食室があるからいじめる たかさんのこと

年中さん(4歳児)になると、クラスで生き物を飼いはじめます。かたつむりだったり、ザリガニなどが多いのですが、グループを決めて世話をします。朝、「かたつむりのエサをください」と給食室へやってきます。キャベツの外葉やニンジン、ヘタを渡してあげます。そんなことも給食を作っているからできること。外部搬入ではできません。

●給食大好き!

保護者の声
★子どもの心と体の成長のため、給食は絶対に大切です。
★3歳児以上でも、食物アレルギーをもつ子はたくさんいます。体調や個々に合わせた配慮ができなくなるのが心配です。
★保育園で作ってくれる給食は安全で安心感があります。何よりも子どもが給食を楽しみにしていますし、栄養士さんたちが実際に料理をしている姿を見られることも、食欲の大切なスパイスになっていると思います。
★自分たちで育てた野菜を給食で食べたり、保育園の給食によって好き嫌いのない子どもに育っていると思います。
★コンビニのお弁当を温めただけのような給食を子どもたちに食べさせて「食育」といえるのでしょうか。給食室で作ってくれる、心もあたたまる、あたたかい給食を子どもたちに食べてほしいです。

●給食大好き!

★保育園には調理師さんと栄養士さんがいて、行事にあわせた食事をつくってくださったり、子どもたちが散歩でとってきたヨモギでおもちを作ってくださいたり、食の楽しさを教えてもらっています。息子には食物アレルギーがありますが、状態の変化に応じて迅速かつ丁寧に対応していただいています。顔が見えるなかで、何でも相談できて安心です。
★保育園の給食には日本の未来がかかっています。保育園から台所を奪わないで!
★子どもの命を守る給食を大事にしてください。子ども一人一人に対応できる、園で作る給食を守ってください。

●給食大好き!

●泣き疲れていたけれど……

4月のある日、入園したばかりのAちゃんは、慣れない保育園生活にひどく泣いて、みんなと同じ時間に給食を食べることができませんでした。担任としては、泣きやんだところで食事をあげたいと思い、Aちゃんが気持ちを変えられる工夫を続けました。しかし、やっと泣きやんだときには、給食を下げた時間。少しでも何か口に入れてから寝かせてあげたいと思い、給食室に相談したところ、調理師さんがふりかけおにぎりを3つ作ってくれました。Aちゃんは、その3つのおにぎりを完食し、お茶を飲み、ニコリしました。お腹が一杯になったAちゃんは、その後ぐっすりお昼寝しました。

子どもの気持ちに寄り添って、その子のペースに合わせた細やかな対応ができことを嬉しく思いました。保育園の中にある給食室だからこそできた対応だったと実感したひとコマです。(1歳児クラス担任 斎藤彩子)

親子でいっしょにあそぼう

陽光保育園では、親子で参加できる広場を月1回設けています。2010年度は、陽光保育園の子どもたちが日頃遊んでいる「砂遊び」と「リズム遊び」を主に計画しました。気軽に遊びにきてください。無料です。

場所 陽光保育園(お問合せは☎3956-1068へ)
時間 午前9時30分~11時(赤ちゃんは10時30分まで)
対象 0歳児~就学前のお子さんと保護者
発達に障害のあるお子さんも大歓迎です

*タオルと着替えをご持参ください。
*0歳のお子さんは、室内にて、赤ちゃん体操やあやし遊びなどでゆったり過ごす予定です。

2010年度/今後の予定

8月19日(木)	9月16日(木)	10月14日(木)	11月18日(木)
12月15日(木)	1月13日(木)	2月10日(木)	3月10日(木)

9月: 看護師が「健康」について相談を受けます。
10月: 栄養士が「食」について相談を受けます。

●トラックがやってきた!
晴天の朝、子どもたちは砂場に出て水遊びを楽しんでいます。そこへ業者さんのトラックがやってきました。「あつ、パンやさんのトラックだ!」「今日のお昼はパンだね。やったー!」。この一瞬で給食の時間が待ち遠しくなった子どもたちです。(保育主任 宗形博美)

●お散歩の帰り道に

茂呂山公園へ遠出した帰り道。「お腹すいた」「今日の給食は何かな?」と子どもたち。「ご飯、大盛りにしてね」と担任にお願いしてきます。「いいよ!」と答えると、「やったー! 給食楽しみだね」と話しているそばからブーンという匂い。路地から美味しい匂いがしてきたのです。「あつ、この匂いは焼肉だ。給食はさつと焼肉だよ」と子どもたち。「スガちゃんやコンノちゃんが、頑張ってるから、ここまで匂いがするんだよ」と調理の人たちの名前をあげます。会話をはずませながら、給食を楽しみに帰ってきました。(4歳児クラス担任 及川悦子)

●給食大好き!

●お詫言とお願ひ

■「陽光保育園創立60周年記念誌」発行が大幅に遅れ、お詫言申し上げます。「陽光保育園創立60周年記念誌」に原稿をお寄せいただいた皆様、ありがとうございます。いぶん以前に原稿をいただきましたが、いまだ発行に至らず、心苦しいばかりです。心からお詫言申し上げます。最も大きな要因は年表の作成に手間どっていることです。古い資料を調べれば調べるほど、そのつながらりや流れに不明な点が生じ、行き詰まる状態が続きました。それでもやっとうとう先が見え、作業を急いでいるところです。勝手ながら、今しばらくお待ちください。よろしくお願いいたします。

■「陽光保育園に関する古い資料をお持ちの方」は、ご一報いただけると幸いです。陽光保育園に関する古い資料、とくに1950年代~70年代の資料を探しています。陽光保育園に関するものなら何でも構いません。後援会や父母の会のニュースなどがあることも助かります。また、地域新聞「明日にむかって」の第7号、8号(1989、91年ころ発行)をお持ちの方はぜひ「一報ください」をお願いします。(編集担当 筒井和美)

ごあんない
◆陽光保育園後援会・夏の交流会
日時 7月25日(日)
場所 三浦海岸
*詳しくは陽光保育園までお問合せください。
◆陽光保育園運動会
日時 10月10日(日) 9時~
場所 板橋第十小学校校庭
◆陽光保育園冬のバザー
日時 12月5日(日) 10時~14時
場所 陽光保育園ホール

収穫の季節に

1歳児編

ときとして思いもよらない姿を見せてくれる子どもたち。今回もそんな子どもたちの姿をご紹介します。1歳児編です。

柿の実採りにみんなが協力!

10月27日、秋晴れの気持ちのよい日、柿の木広場へ行きました。担任が柿の木に登り、木の枝で柿の実を落とそうとしますが届きません。下からたいら君が「ゆきちゃん!」と声を送ってくれます。枝が届かず困っていると、こんどは「ゆきちゃん!」と声を送ってくれます。...



かちゃんともさき君が柿の木に登ったつもりで木にしがみついています。柿の実を探ろうと協力する子どもたちの気持ちが伝わってきます。やっと長い棒が見つかりました。棒を持ったままでは木に登れません。

保育士が木に登って「棒ちょうだい」としげはる君に頼むと、自分の背丈の倍はある棒を一生懸命渡してくれました。とうとう柿の実が届きました。「柿が落ちるから危ないよ」と声をかけると、さつと逃げた子どもたち! なの下にいた保育士の背中が刺さる。みんなで大笑いでした。落ちた柿をさつと拾いにいったのは、るりちゃん。二つ持ってニマリ。みんな食べると、とっても甘い柿でした。

子どもたちが大きく成長する秋

次の日...。朝、子どもたちは、前日休みだった保育士に、「ゆきちゃん来た、椎の実!」(今日の散歩は椎の実を探りにいくんだよと伝えたかったようです)と話していたそうです。期待いっぱい今日を待っていた子どもたちの様子に心の成長を感じ、感動しました。そしてこの日は4・5歳児のおいも掘りの日でした。いつものように本を読んだ後

「今日いいことがあるよ」と話しかけると、「なに? なに?」と、お休みが続いていたこころちゃんも期待いっぱいの顔。たけし君は保育士の真正面まで来て、体じゅうで「うん、うん」とうなずきながら聞いていました。

4・5歳の子どもたちがおいもを持ってきてくれることを話すと、「やったあ!」と歓声があがります。パンザイしている子もいて個々だった子どもたちが、夏を過ぎ、友達や楽しいことに心を寄せ、ギョッとひとつになる姿に成長を感じ、保育士にとっても感動がいっぱいの秋! そして、その日はもちろんデブッチョ椎の実を拾いにいき、おやつに美味しく食べました。



*子どもたちの名前はすべて仮名です。(陽光保育園保育士 植野雪子)



新しいネームプレートの前で。左から矢野栄治さん、社会福祉法人陽光会星野理事長、矢野慶子さん、陽光保育園の細川事務主任と徳留園長

陽光保育園の新しいネームプレートができました。在園児の祖父で、銅看板の職人だった矢野栄治さんに、陽光保育園のネームプレートを銅板で製作していただき、門扉の脇に取り付けていただきました。ついでの折にご覧ください。



息子たちとの遊びがエネルギー源。ある土曜日、私と息子2人の3人で新宿駅に電車を見に行きました。妻が仕事するとき、父子3人で出かけるのはもうすっかり慣れていました。朝食を食べさせながら、頭の中では「公園に行こうか?」でも前日の雨で遊びが使用できないと子どもたちが楽しめないかな、いろいろ迷っていました。

もありませんでした。電車ウオッチングが楽しめなくなりました。家を9時に出発。千川駅から有楽町線、埼京線乗り換え新宿へ。今日のポイントに着き、2人を解放します。案の定、電車好きな2人は橋の上を行ったり来たりして、はしゃいでいます。他にも家族連れがいたのですが、その子どもたちはみなおとなしく電車を見ている。おとなしくしていないうちの子どもたちが通行人の邪魔にならないよう、父は子どもたちを誘導しなければなりません。父親としては、電車をおとなしく見てほしいと思う反面、走り回って喜んでる息子たちを見て、こちらまで嬉しくなってしまう。

40分くらい電車を見ながら運動?したので、昼飯のことを考え「帰ろう」と誘います。でも、なかなか帰ろうとしない子どもたち。なんとか促し新宿を出発しました。はしゃぎ疲れたのか息子たちは帰りの電車では借りきた猫のようになんかおとなしくなっていました。いつもなら、家に着いてから昼飯、遊び、昼寝と続くのですが、この日は義母が家に来てくれたので、昼飯の後、次男を義母に託し、父は巧木とドライブへ(長男は寝るのを嫌がるので)。しばらく車を走らせていると、やはり疲れていたようで、寝てしまいました。その安心した寝顔を見るとホッとします。

息子たちと出掛けるようになった当初、いつも「おかあさんは? おかあさんは?」と尋ねていた巧木が、最近「おとうさん、おとうさん」と言ってくれるようになり、丸一日一緒に過ごすことも平気になりました。普段、仕事から帰ってくる、家事や育児などで忙しい日々ですが、子どもと一緒に遊びに行くことが私のエネルギー源になります。エネルギーを与えてくれる息子たちに感謝する父です。(3歳児クラス・巧木、1歳児クラス・知宏の父 松沼誠)

番外編 シリーズ 戦争と私

NTP再検討会議行動in NY。陽光保育園関係者3人が参加。5月2日、28日、ニューヨーク国連本部で核拡散防止条約(NPT)再検討会議(1970年以來5年に一度開催)が開かれるにあわせ、核廃絶を願って世界中から集まった市民による行動に、陽光保育園卒園の若者や保護者も参加した。今回は「戦争と私 番外編」として、参加した3人の声をお届けします。再検討会議は「核廃絶を逆戻りさせない」ことをうたう閉幕し、一定の成果はありましたが、核廃絶への道のりはまだまだ遠そうです。世界中から核兵器がなくなることを願ってやみません。

アメリカ人がたくさんいました。それは生来の気質だけでなく、9・11同時多発テロ以降、暴力では何も解決できないという声が増えたからだと言われました。その反面、「核廃絶自体はよいことだが、世界にはまだまだたくさん的大量破壊兵器があり、アメリカが先に核を手放すことはできない。なぜなら報復されてしまうから」という抑止論も、署名活動中にたくさん聞きました。国連本部前までのパレードには世界各地から大勢の参加がありましたが、日本人がやはり一番多く、みんなたくさんの想いをもってパフォーマンスをしていました。国連本部前で一緒に行動したドイツ人は、「世界に同じ志を持つ青年がたくさんいて感動した! 今後も一緒に行動していけば核兵器はなくなると思う」と、熱く語ってくれました。核兵器廃絶の流れは突発的に出てきたのではなく、今までの運動の力によるものだということを、日本の大学生の言葉で強く感じました。それは「日本全国での地道な署名活動や、世界で起きたイラク戦争反対の運動。オバマ大統領の発言もそういった刺激から生まれたものでは」という内容でした。国連事務総長のパン・ギムン氏も「地球から核兵器がなくなるとすれば、それはたくさんの運動の力によるものだ」と語りました。これからは、それを確信にして、「核廃絶・戦争廃絶」に向けて、小さくても、確実に前に進んでいきたいと思いました。(1993年度卒園/NPO 法人職員)

「平和でなければ!」を感じた旅 多田 純也 「ニューヨークの反核パレードで大鼓をたたこう!」と誘われて、高齢者 NGO のツアーサポートメンバーとして5月初旬の反核国際行動に参加してきました。メキシコのマヤの遺跡などに立ち寄り、高齢者施設で獅子舞等の公演をし、NY入り。「核兵器のない世界のための国際行動デー」の集会は1万人を超える参加者でした。国連本部前ひろばまでのパレードを大鼓をたたきながら歩きました。参加した高齢の被爆者の話も聞き、この思いを受け継いでゆく大切さを感じました。行動への日本からの参加者の多さとヨーロッパからの参加者たちに感動しましたが、黒人やアジア人の姿がなく、まだまだ核廃絶運動は世界的には草の根になっていないとも感じました。舞台芸術活動も旅行も平和でなければできないことです。今回の経験と思いを拡げてゆき、核兵器のない世界の実現に私なりに力を入れてゆきたいと思えます。(卒園児保護者/劇と表現あそびの風光舎主宰)

ニューヨーク行動で学んだこと 佐々木 平 僕がニューヨークに行こうと思ったのは、NPT再検討会議に向け世界中から人が集まってくるからです。そこに参加し、現地でもしか学べないことを学びたいと思ったからです。ニューヨークでは、NPT再検討会議に向けての行動の規模の大きさに驚きました。ピースウォークという行進に参加したときのことですが、僕らの前にも後ろにも、どこまでも長い列が続いていて、外国の人もたくさん混ざっていました。世界的にこんなにも大勢の人が核兵器廃絶という課題に注目し、このような行動を起こしているということは、日本にいるだけだとなかなかわからないことだと思います。今まで日本から発信してきた平和のための行動が世界を動かし、大きな流れとなっていることを、今回知る事ができました。また同時に、今後の課題についても考える機会となりました。外国で大きな関心が集まっているのに対して日本、とくに僕らのような若年層の間ではあまりこういった内容に関心がありません。この現状は非常に悲しいことだと思います。自分たちの見た事、聞いた事を人に繋げていくというのがこれから僕たちのしていくべきことだと、今回ニューヨークに行き、考えさせられました。(1998年度卒園/高等専門学校3年生)

建設資金 寄付のご協力ありがとうございます。 (2010年3月11日~2010年6月30日/順不同・敬称略) 清水卓、中山利子、岡田和歌子、北沢三千子、片山高司、石川衣、匿名希望1名

よここうはいくえんの 一時保育 こんなたとごご利用ください 保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護など。また保護者の傷病・災害・事故・出産・冠婚葬祭など緊急時 保護者の生涯学習・子育て不安・リフレッシュなど 育児相談、健康診断等、お子さんが保育園での保育が必要と認められたとき